

熱帯の森林害虫 (18)

野 淵 輝

鱗翅目 9

タテハチョウ科 Nymphalidae (brushfooted butterflies)

中ないし大形。多くのものは鮮明色であるが、一部には鈍色の種類もいる。触角は棍棒状、鬚は大形で棍棒状。翅は大形、亜前室が稀に存在し、中央室は開口または1小脈にて閉ざされている。前脚は著しく退化する。卵は植物上に単独か小群状に産下される。幼虫は裸体かまたは有棘である。蛹は尾端でぶら下がる。幼虫は双子葉植物の樹木と草本の葉を摂食する。

Charaxes fabius Fabricius はインドで *Dalbergia sissoo* と *Xylia xylocarpa* の葉を摂食する。*C. polyxena* Fabricius は *Dalbergia latifolia* の葉を食う。またウガンダでは *C. achaemones* Felder が天然林で *Maesopsis eminii* の小径木の葉を食う。*Eriboea athamas* Drury はインドとパキスタンに分布し、*Acacia* や *Albizia* などの豆科植物の葉を食害する。*Lethe drypetis* Hewitson はインドで *Bambusa arundinacea* の食葉虫として記録されている。*Neptis jumbah* Moore はインドに生息し、双子葉植物の多食性の食葉性害虫で、加害樹の中に *Bombax malabaricum*, *Dalbergia* sp., *Pongamia pinnata*, *Pterocarpus marsupium*, *Xylia xylocarpa*, *Ziziphus mauritiana* などが含まれる。

シャクガ科 Geometridae (looper)

成虫は小形ないし中庸大。頭部の毛隆は発達する。小腿は小さく1~2節。口吻は通常あるが鱗毛に覆われない。下唇鬚は3節、単眼はしばしば欠如する。鼓膜器はある。第5径脈は第4径脈から遠くなく、多くの場合この脈と有柄となるか小室から出る。前脛節には葉状片がある。雌では翅が退化したり完全に無翅のものもいる。幼虫は腹部の後方に2対または3対の腹脚をそなえ、尾脚は特に良く発達している。体表は普通滑らかである。いわゆるシャクトリムシ (looper) である。静止の際に腹脚で小枝に止まり枯枝に擬態するものがある。植物の葉を主に摂食するが、蕾や花を食うものもいる。農林業害虫の種類が多い。世界中に分布し、約20,000種が知られている。

Antitrygodes は熱帯の属で、*A. cuneilinae* Walker はインドで *Adina cordifolia* と *Anthocephalus cadamba* の葉を食う。*Ascotis selenaria* Denis et Schiffermüller は旧世界の熱帯と亜熱帯に広く分布する。成虫は個体変異が多く、開張は約50mm。幼虫は広葉樹と針葉樹の葉を食い時に大発生する。静止時に腹脚で食餌植物につかまり体を硬直させ、若枝に擬態する。蛹は裸蛹で土中で行う。この種の原因種はインドとパキスタンに分布し、*Melia azedarach*, *Morus alba*, *Syzygium cuminii* などの葉を食害する。インド、パキスタンにいる亜種の *A. selenaria imparata* Walker は *Albizia procera*, *Ca-*

NOBUCHI, Akira : Insect Enemies in the Tropical Forests (18) Lepidoptera 9
林業科学技術振興所筑波支所

suarina equisetifolia, *Dalbergia sissoo*, *Melia azedarach*, *Santalum album*, *Schleichera oleosa*, *Shorea robusta*, チーク, *Toona ciliata* など多数の双子葉植物の葉を加害する。インドでは年5世代を繰り返す。パキスタンでは *Dalbergia sissoo* の大害虫で、パンジャブの灌漑造林地の *Melia azedarach* に激しい失葉被害がでたことがあり、時に *Shorea robusta* の若葉に被害が現れる。アフリカのサワラ砂漠以南に分布する亜種の *A. selenaria reciprocata* Walker は柑橘類の害虫であるが、ナイジェリア西部でチークを、ガーナでは *Ceiba pentandra* を、ウガンダでは *Acrocarpus fraxinifolius*, *Chlorophora excelsa*, *Cupressus lusitanica*, *Eucalyptus torrelliana* のマイナー害虫にされている。*Buzara subpressaria* Guenée は東アジアに分布し、広葉樹の葉を食べる多食性の種類で、*Acacia catechu*, *A. modesta*, *Aleurites montana*, *Cassia auriculata*, *C. fistula*, *Dalbergia sissoo* などが加害樹として記録されている。中国では茶にもつき、*Aleurites* の重要害虫とされている。インドでは少なくとも年3世代で、寄生樹の樹皮上に卵塊で産卵する。若幼虫は這ったり風で飛ばされて分散する。*Chrysocraspeda olearia* Guenée はインドに生息する細長いシャクトリムシで、*Syzygium cuminii* の葉を加害し、苗畑や若齢造林地で時に激しい被害が見られる。成虫は夜行性で100卵を寄生樹の葉上に1個あるいは卵塊で産下する。蛹は寄生樹上で絹糸の当て物でくっつく。1世代は夏季には3週間で、冬季は5か月であり、個々の発育には長短があるため、世代は重複する。*Cleora acaciaria* Boisduval はインドに分布する多食性のシャクトリムシである。林木では *Alseodaphne semecarpifolia*, *Cassia fistula*, マンゴ, *Shorea robusta* などが寄生樹として記録されている。*Cusiala raptaria* Walker はインドとパキスタンに分布し、加害樹は *Acacia nilotica*, *Albizia procera*, *Cassia fistula*, *Dalbergia sissoo*, *Lannea coromandelica*, *Schleichera oleosa*, *Shorea robusta*, *Syzygium cuminii* などである。土壌中の蛹で越冬し、成虫は4月に出現し、幼虫は6月以降に現れ葉を食害する。*Ectopis bhurmitra* Walker は南ヨーロッパとアジアに広く分布する。双子葉植物の多食性の食葉虫で、インドでは *Aleurites montana*, *Bombax malabaricum*, *Dalbergia latifolia*, *Grevillea robusta*, *Schleichera oleosa*, *Shorea robusta*, *Syzygium cuminii*, *Taxodium distichum*, チーク, *Terminalia tomentosa* などが加害樹種として知られてい

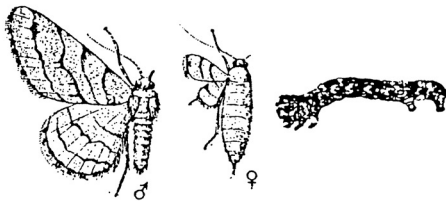


図-1 *Ectopis deodarae* Prout 左：雄成虫，
中：雌成虫，右：幼虫（BEESON より）

る。またカカオ、ガンビア、茶、その他の作物のマイナー害虫としても知られている。幼虫は疎林に発生し、生長すると体長30mmに達する。色彩は変化があるが、普通灰緑色で褐色の斑紋と線条をそなえ、若葉はほとんど食いつくすが、旧葉は葉脈を食い残し骸骨状にする。また葉を食いつくすと若枝の樹皮も噛む。蛹化は土中で行う。インドでは年数世

代を繰り返す。*E. deodarae* Prout は北西インドとパキスタンに生息し、ヒマラヤの外域で *Cedrus deodara* の食葉性害虫である。*Abies pindrow* も加害樹種として知られている。雌成虫は翅が退化しているが、雄は幅広い白色で黒のぶちのある翅を持ち、開張は 35~40 mm。1 年 1 世代で 3 月に羽化する。交尾した雌は樹冠に這い上がり針葉に産卵する。幼虫は緑色で、白い毛をそなえ、生長すると体長 25 mm に達する。6 月まで葉上で食葉する。成熟すると絹糸で降り落葉層内で繭を作らず蛹化する。大発生の間隔は 10 年ぐらいで、2~3 年は続く。繰り返し被害を受けた木は枯損する。枯損率が 30% になった森林がある。*Gelasma goniaria* Felder はインド、パキスタンに分布し、双子葉植物の多食性の食葉性害虫で葉上で葉を食うシャクトリムシである。加害樹種は *Anogeissus latifolia*, *Shorea robusta*, *Syzygium cuminii*, *Terminalia arjuna*, *T. myriocarpa*, *T. tomentosa* が知られている。*Gonodontis clelia* Cramer はインドに生息し、多食性で各種の双子葉植物の葉を食べる。寄生樹は *Adina cordifolia*, メリナ、マホガニー、チークが記録されている。*Hemithea costipunctata* Moore はインドやマラヤなどの東洋区に分布している。成虫の開張は約 20 mm、翅はコバルトグリーンで 3 本の銀白色の波状線をそなえる。幼虫は緑色、体長は約 25 mm に達する。インドでは森林に被害をあたえた記録はないが、マラヤでゴムノキとマンゴの花序を加害する。卵は花や花序に普通 1 粒ずつであるが、まれに短い列状に産下する。幼虫は花を、後に葉も食う。日中は静止し、体を硬直させて花茎や葉柄に擬態する。蛹は尾部末端を寄主につけぶら下がる。マラヤでの卵、幼虫、蛹の期間はそれぞれ 2~4、17~25、8~11 日で 1 世代長は 4~6 週間である。*Hipparchus flavifrontaria* Guenée は北インドで時に *Quercus dilatata* に発生する。成虫は 4 月から 6 月初旬まで出現する。*Pingasa chlora* Stoll はインドで *Xylia xylocarpa* の食葉性害虫である。*P. ruginaria* Guenée は東南アジアとウガンダにいて *Terminalia tomentosa* と *Xylia xylocarpa* の葉を食う。*Pseudalcis trispinaria* Walker はインドでユーカリとチークの食葉性マイナー害虫にされている。*Ptochophyle togata* Fabricius はインドで *Syzygium cuminii* の食葉性害虫である。*Semiothisa emersaria* Walker はスリランカ、インド、マラヤなど東洋区に分布し、各種の双子葉植物の葉を食い、マラヤでは *Albizia falcata*, インドでは *Albizia procera*, *Cassia fistula*, *Terminalia tomentosa* が記録されている。*S. fidoniata* Guenée はインドで *Acacia cat-echu* に大発生する。年数世代を繰り返し、土壌中で蛹化する。*S. pluviata* Fabricius はインドとパキスタンに分布し、豆科植物の葉を加害する。卵は光沢ある緑色で 1 個あるいは卵塊で莢や若葉に産下する。幼虫は体長 25 mm に生長し、灰色あるいは緑色で黄色の横帯をそなえる。蛹化は土中である。世代長は 6~7 週間である。*S. streniataria* Wakler はインドとパキスタンに分布し、*Acacia nilotica* の幼齡林の食葉性害虫として時に発生する。また *Tamarix* の葉も食う。